

道内金融機関等との連携による 創業支援事例について

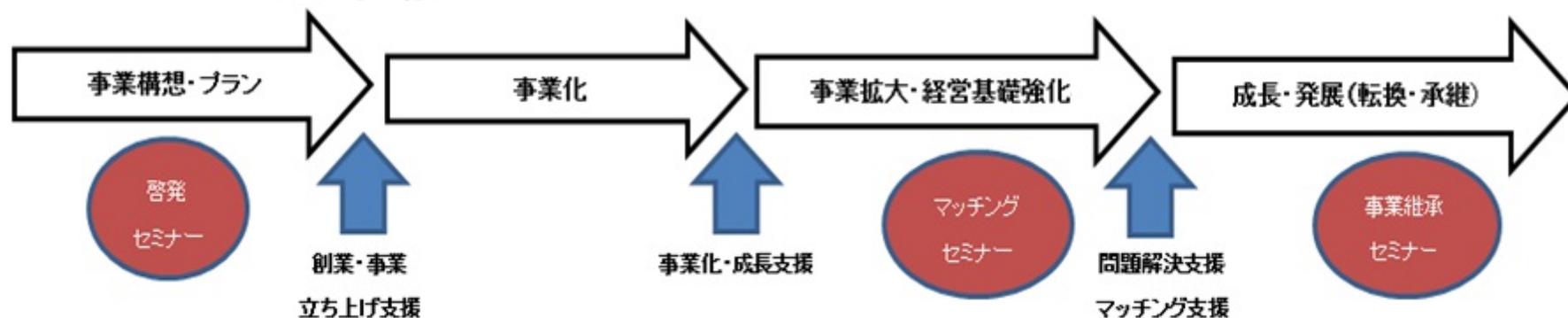
平成27年10月26日
「創業支援に関する地域ワークショップ」

独立行政法人中小企業基盤整備機構
北海道本部 経営支援部 松尾 一久

C2

中小機構の企業支援

成長発展段階に応じた支援メニュー



経営相談

専門家派遣事業 (専門家継続派遣・戦略的CIO育成支援・経営実務支援)(工場診断)

販路開拓支援事業

(J-GoodTech・販路開拓コーディネイト事業・販路ナビゲーター創出支援事業・販路開拓フェア・イベント)

国際化支援事業 (海外展開相談、展示会への支援、海外現地調査等の支援)

農商工連携支援・地域資源活用支援・新連携支援

インキュベーション事業(北大ビジネス・スプリング)

人材育成支援事業・社員教育

小規模企業共済 経営セーフティ共済

3法ハンズオン支援事業【新連携、地域資源、農商工連携支援】

新連携、地域資源活用、農商工連携により新事業に取り組む地域中小企業者を支援。
 ～「計画策定」段階から「計画期間終了」時点まで一貫支援～

【3事業の累計認定件数】 205件(平成27年9月現在)

新連携(平成17年度から)

□全国認定件数 1,021件
 ◇道内認定件数 64件(6.3%)

地域資源活用(平成19年度から)

□全国認定件数 1,358件
 ◇道内認定件数 91件(6.7%)

農商工連携(平成20年度から)

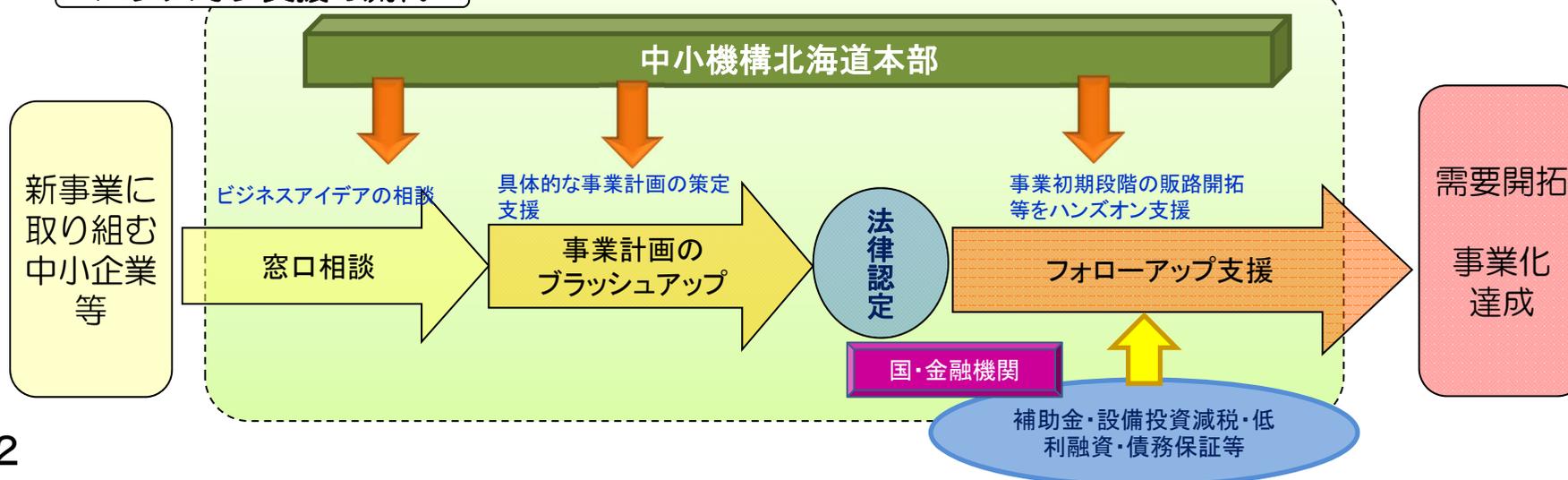
□全国認定件数 660件
 ◇道内認定件数 50件(7.6%)

中小機構北海道本部が行う支援

○マーケティング等に精通した専門家が常駐して相談に対応。
 ○事業内容、支援ニーズに応じて、各種の専門家(経営コンサルタント、クリエイター、デザイナー、百貨店OB、中小企業診断士等)も支援に参画しチームとして総合的に支援。

北海道本部のプロジェクトマネージャー及びチーフアドバイザー(6名)が事業支援を行います。

ハンズオン支援の流れ



丸和信和建設株式会社 (標津町)

業 種：建設工事請負業（住宅、農水商工施設建設）
設 立：昭和52年4月
資本金：20,000千円

C2

【平成21年度地域資源認定】 標津産「ブナサケ」を原料に手火山づくり製法 を取り入れた削り節の開発・販売

【事業概要】

◇我が国でも有数な秋サケの水揚げを誇る標津町において、「ブナサケ」を原料に、サケの旨みを最大限に引き出す伝統製法「手火山づくり」の技術を活用し、上品な旨み、風味にこだわった「サケの削り節」の開発・販売を実施。

◇力強いカツオ節のイノシン酸と異なり、日本でも数少ない「手火山づくり」の技術により、グルタミン酸が豊富で他の魚にないさわやかな甘みを持つ「サケの削り節」で、他の削り節との差別化を図る。

◇そば、ラーメン店等の専門店で業務用調味料として販売し、業務用食品販売会社に煮物のだし、おにぎりやお茶漬けの具材として販路を拡大。

◇食加研、標津漁組等の協力を受け、羅臼町のサケ節企業と連携し、全国の展示会等に出展することで、優れた北海道加工食品ブランドの一つとして、全国にPRすることに注力。大手食品メーカーからも注目されている。



【金融機関との連携】

◇地域資源事業認定後、量産体制に入るための新工場建設に際し、事業スケジュールの遅れにより低利融資の貸付が困難となった事態を受けて、地元信金が設備融資を実行してくれた。

◇事業スキーム上、原材料(鮭)を漁組から一括購入する必要があり、これに対する運転資金を地元信金の融資実行により対処できた。

◇事業認定、新工場建設等事業進捗に合わせて、スピーディーに融資対応してくれたことが、今の事業の成功に繋がっている。

株式会社天狗堂宝船 (七飯町)

業 種：生菓子製造業（きびだんご製造・卸売等）
設 立：昭和28年8月
資本金：10,000千円

C2

【平成26年度農商工連携認定】 七飯町産のりんごを用いたプレザーブの開発・ 製造及び販売

【事業概要】

◇連携する農業者は、「七飯町果樹組合」で、七飯町でしか商用生産されていないりんご品種「ほおずり」や「ふじ」「紅玉」を使用したプレザーブの開発・販売を行う。

◇西洋リンゴ発祥の地という歴史的背景を活かし、多品種に比べ圧倒的に酸味の強い「ほおずり」を原材料として加工し、アップルプレザーブを開発。

◇同品種は生産に手間がかからないことから、農家後継者不足、生産農家の高齢化等の課題を抱える当該地域にとって有効。

◇伝統菓子「きびだんご」が主力商品である同社の新商品開発であり、多くのメディアに取り上げられ、道内菓子製造企業からの引き合いが多い。

◇来年3月末の北海道新幹線開業に合わせて、新たな観光商品開発に寄与することが期待される。



【金融機関との連携】

◇現在の同社の手作業中心の生産体制では、近い将来の急激な需要増加に対応できないため、加工施設の増築、機械設備の導入に必要な資金を、政府系金融機関が適切に融資してくれたことにより、事業計画に沿って円滑に事業推進を図ることが出来た。

◇関係協力機関や専門家から品質向上のアドバイスを受けることが出来た。

株式会社吉田食品 (函館市)

業 種：食品製造業（和菓子・パン製造・卸売等）
設 立：昭和17年3月
資本金：10,000千円

C2

【平成26年度農商工連携認定】 みよい農園の有機JAS認証栽培「くりりん」 南瓜を使った「黄金の南瓜スイーツ」の開発・ 製造・販売事業

【事業概要】

◇連携する農業者は、「(株)みよい」で、土作りを徹底的に研究し、高糖度の「くりりん」の果肉と廃棄処分にしてきた皮部分のペーストを菓子の原材料として利用。

◇収益力向上のため、「くりりん」で自社ブランドを強化する新商品を開発し、スーパー向け等卸売販売から直営店や土産・ギフト市場での販売にシフトする。

◇(株)みよいの高いブランド力を有する南瓜と商品化の経験を有する(株)吉田食品が連携し、新商品の開発・製造・販売を実施する。

◇直営店では、菓子製造の見学コースを整備し、イートインスペースを確保することで、地元消費者、観光客需要の増大を図る。

◇来年3月末の北海道新幹線開業に合わせて、新たな観光商品開発として直販し、利益率の高い百貨店やギフト市場での販売ウエイトも高めていく。



【金融機関との連携】

◇新店舗及び新工場の建設に際し、民間金融機関及び政府系金融機関による協調融資が円滑に進められたおかげで、事業計画通りに新店舗等の建設が実施できた。

◇建設資材の高騰によるコスト増加に対しても、両行から適切なアドバイス等によるサポートをいただいた。

株式会社クロックワーク 北海道（札幌市）

業 種：微生物検査受託、食品衛生関連機器取扱い
設 立：平成24年10月
資本金：9,500千円

C2

【平成27年度新連携事業認定】 中小食品メーカーの衛生向上のためのオーダー メイド型除菌剤提供サービスの開発

【事業概要】

◇対象となる食品工場の検査データに基づいた危害分析を行い、ターゲット微生物を決め、必要十分な量の除菌剤を噴霧し、噴霧後の検査データを採取し、再度危害分析を実施し、必要な除菌剤を噴霧するサービスを開発。

◇既に道内90社、道外550社の顧客の微生物検査データを所有。机上ではなく、実際の工場から出た微生物データによる食品工場危害データベースを構築し、これを活用した対象工場に対する改善策の提案を実施。

◇これらのサービス提供が、間接的に工場作業者に対する衛生管理、現場管理への意識改善に繋がる。

◇現在道内大手食品工場から、高濃度の次亜塩素酸Naによるバチルス属の除菌では、設備の腐食が問題となるため、腐食性の低い既存添加物による除菌方法を要望されている。



【金融機関との連携】

◇新連携補助金採択に伴い、政府系金融機関等がつなぎ融資の支援を検討中。

◇親会社（沖縄県）のケースでは、補助金のつなぎ融資について地元金融機関の支援を受け、加えて、同行が検討していた融資先の食品工場建設案件について紹介を受け、同社が衛生管理等の観点から同設備計画に対してアドバイスを行ったことで当該計画が改善され、結果的に同行からの設備融資を受けることが可能となった。

◇今後北海道においても、金融機関と同社が融資と衛生管理の両面から食品工場等への支援をすることを進めていく予定。

ヒッコリーウィンド (鶴居村)

業 種：観光業（宿泊業、ツアー企画・ガイド業）
設 立：平成11年12月
資本金：（個人事業主）

C2

【平成20年度地域資源認定】 「自分流の観光」を求める旅行者に向けた釧路 湿原体験観光プログラムの発掘・提供

【事業概要】

◇ラムサール条約登録地で国立公園に指定されている釧路湿原体験観光を、世界的に著名な外国人カメラマン、ガイド、料理専門家の協力を得て実施。観光を産業として展開し、インバウンドによる観光売上げ増大を目指す。

◇道鳥、鶴居村鳥であるタンチョウの夏季繁殖地である釧路湿原は、バードウォッチャーの間で世界的に有名。観光ブランドの象徴としてタンチョウを様々な方法で世界に発信することで、道東地域の観光振興に寄与。

◇海外アウトドアグッズメーカーの協力による海外旅行者のインターネット予約の充実、個人向け旅行業者との連携によりインバウンドの拡大を図る。

◇ネイチャーズベストフォトグラフィージャパン2014の鳥部門優秀賞、全体の準グランプリを受賞し、今年10月よりアメリカ・スミソニアン博物館に作品が展示される快挙を成し遂げ、今後より一層道東地域の観光振興に寄与。



【金融機関との連携】

◇平成16年に、道知事認定「アウトドアガイド」の資格取得後、第二創業としてプロによる観光ガイド事業を展開。

◇地域資源認定の補助金採択に伴い、宿泊施設増築資金に公的機関の低利融資と、設備及び運転資金に地元信金の融資を活用。

◇地元信金は早くから同社オーナーの写真を高く評価、同行のカレンダー、デスクロージャー誌に採用。

◇隣接釧路市役所で、同社社長の個展を開催。釧路市長も参加し、地域観光資源のPRを強力に推進。

シロクマ北海食品株式会社 (札幌市)

業 種：食料品製造業（パン製造・販売）
設 立：昭和43年7月
資本金：56,000千円

C2

【平成26年度農商工連携認定】 北海道産有機小麦を用いた有機JAS認証パン の開発、製造及び販売

【事業概要】

◇連携する農業者は、「田中哲夫」で、北海道産有機JAS認証小麦「はるきらり」を生産しており、販路拡大を目指していたところ、（一社）北海道中小企業家同友会札幌支部の橋渡しで、同社と連携した。

◇パン業界は、小麦を中心とした原料価格や小売価格に影響されやすく、営業利益率が低く、厳しい経営状況にあるため、高付加価値商品の開発を模索していた同社にとって、「はるきらり」は有望な原材料。

◇北海道産有機JAS認証小麦を主原料とし、有機JAS認証を取得した工場で、北海道初の有機JAS認証マークを表示したパンの開発、製造及び販売を実施。

◇高付加価値商品で他社との差別化を図り、ブランド力を強化し、有機JAS認証小麦で農業者と連携。コスト変動を最小限にし経営の安定化を図る。

◇ブランドの再構築に合わせ、既存店舗を閉店し新店舗を札幌市内にオープン。

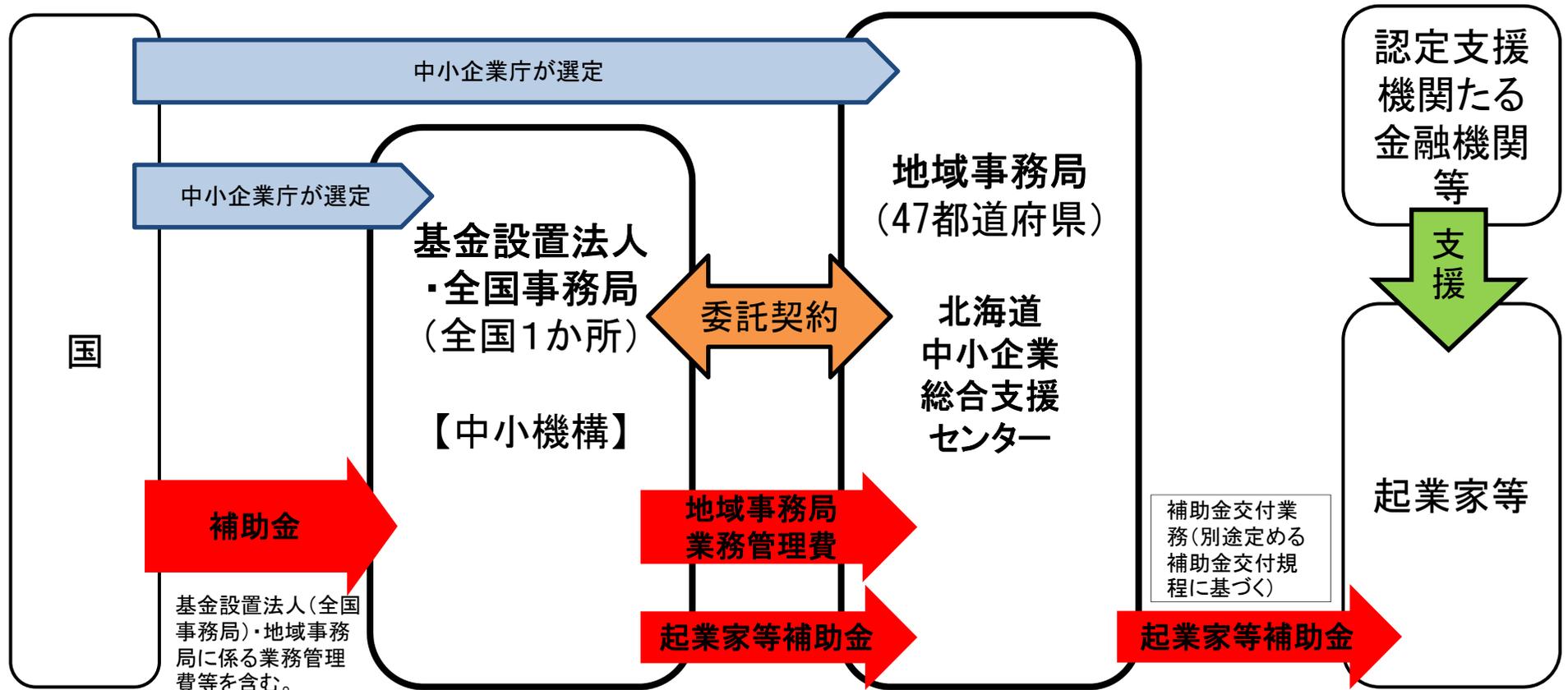


【金融機関との連携】

◇新店舗のオープンに際し、有名デザイナー等からのアドバイスを受けることも含め、新店舗改装資金が必要になり、政府系金融機関からの低利融資を受けることが出来た。

◇店舗オープンまで時間が限られている中、スピーディに融資を実行していただけたことで、新事業が順調に進捗し、新店舗の売上が当初計画の3倍程度まで向上し、業績の飛躍に繋がった。

平成24・25補正「地域需要創造型等起業・創業促進事業」執行体制



- 基金設置法人・全国事務局(全国で1か所設置)
基金の管理・運用、事業全体の管理、全国審査委員会の設置・運営、地域事務局業務管理費等支払 等
- 地域事務局(47都道府県にそれぞれ1か所設置)
起業家等による事業計画の募集、地域審査委員会の設置・運営、起業家等への補助金の交付決定、額の確定、支払 等

glass art N+

(小樽市)

業 種：窯業・土石製品製造業（ガラス工芸品製造）
設 立：平成26年4月
資本金：（個人事業主）

C2

【平成25年度補正創業補助金】
当社独自の「オリジナルガラス工芸品」の製造・販売及び「吹きガラス」の製作体験を通じた「小樽ガラス」の普及活動の展開

【事業概要】

◇小樽の伝統的な「宙吹きガラス」と「型吹きガラス」の技術を融合させて創った当社の「オリジナルガラス工芸品」を製造、販売することで、体験型観光としての「小樽ガラス」製造の感動を全国に普及する。

◇型吹きで製品の規格を統一し、効率的に製造し、宙吹きで手作りの風合いを出す両方のメリットを活かした技法で、製作時間の短縮、コスト削減、ぬくもり感のある製品作りを実現した。

◇自社店舗での直接販売と北一硝子を中心としたガラスショップでの卸販売を行うことで、「小樽ガラス」の普及事業を展開。

◇実際に、「吹きガラス」の製作体験をしてもらうことで、「小樽ガラス」の魅力を実感していただき、全国にガラス工芸品のファンが広がることを狙う。



【金融機関との連携】

◇創業の動機、これまでの経験などを認定支援機関（税理士・地元金融機関）に伝えながら、事業資金の見通しの検討打合せ等事業推進に関するアドバイスを受け、事業計画・資金計画の作成支援を受けた。

◇政府系金融機関の連携融資を受けた。

◇事業で起こり得るリスクマネジメントの指導も受け、標準保障額のアドバイスを受けて、適正な付保を実行した。

◇月次決算の実施、現状の課題の明確化、行動計画への落とし込み等月次業績管理体制を構築した。

合同会社 和膳 (音更町)

業 種：飲食サービス業（蕎麦店）
設 立：平成26年7月
資本金：4,000千円

C2

【平成25年度補正創業補助金】 道産食材を中心とした手打ち蕎麦店舗の開業

【事業概要】

◇体と心にやさしいをテーマに、道産食材と無添加食材を使用し、高い技術力を用いて生産。幅広い年齢層にも安心・安全なこだわりの商品を提供する飲食店を目指す。

◇富良野産の牡丹そばから選抜固定した新品種「キタワセ」を使用。試験栽培を繰り返し、平成元年に農水省へ登録命名し、全国初のそばで登録番号が付けられた貴重な品種。

◇蕎麦は健康食の一つで、ビタミンB群等が含有、血液浄化、高血圧予防等成人病予防にも効果的で、健康志向の強い女性向けのメニューに最適。

◇開店当初は、新聞取材以外の宣伝広告を意図的にせず、口コミとSNSのみの営業とし、その後生活情報誌、地元メディアへの出演、観光用グルメ雑誌の掲載のオファーが来て、メニュー追加を実施。売上げは、計画目標値の80%を達成。

◇外食産業の低迷下、蕎麦店の市場規模は堅調に推移。

◇開店当初よりお客様の求めるニーズ等に出来る限り対応するよう従業員一丸となって対応。食べ残し、クレーム等には、徹底的に調査し即時改善。



【金融機関との連携】

◇当該事業の資金計画において、地元金融機関からの借入金、補助金のつなぎ融資の支援協力を了解いただいた。
◇毎月地元金融機関担当者が、事業経過報告を受け相談対応、助言をいただいている。

View Cafe (小樽市)

業種：飲食店（カフェ）
設立：平成27年7月
資本金：（個人事業主）

C2

【平成25年度補正創業補助金】 小樽八区八景認定の絶景を眺望する小樽 後志食材の地産地消カフェ

【事業概要】

◇「地産地消カフェ」として、米と野菜の大半を後志管内産を使用、魚介系メニューは、100%後志管内産の食材を使用。

◇小樽後志地域及び周辺地域への魅力・情報発信源「地域情報発信カフェ」としての役割も果たす。管内自治体が対外的に移住受入促進策を講ずる際は、同店舗のリーフレット等を配布しPR。

◇地域コミュニティの機能を有する「地域ランドマークカフェ」として、店内で、写真展、絵画個展、道内ミュージシャンによる音楽イベント等を開催し、集客力を高める。

◇地元エリア5, 500世帯に新聞折り込みチラシにて開店を告知。その他、ターゲット顧客分析、収益性の検討、PR・販売戦略等を緻密に検討し実行している。

◇事業主は、大学生時代の横浜市でのカフェでのアルバイト、政府系金融機関札幌支店での債権管理、融資等業務、東京アカデミー札幌校事務局長の業務等多彩な業務経験、人的ネットワークをフルに活用した業務展開を実施。

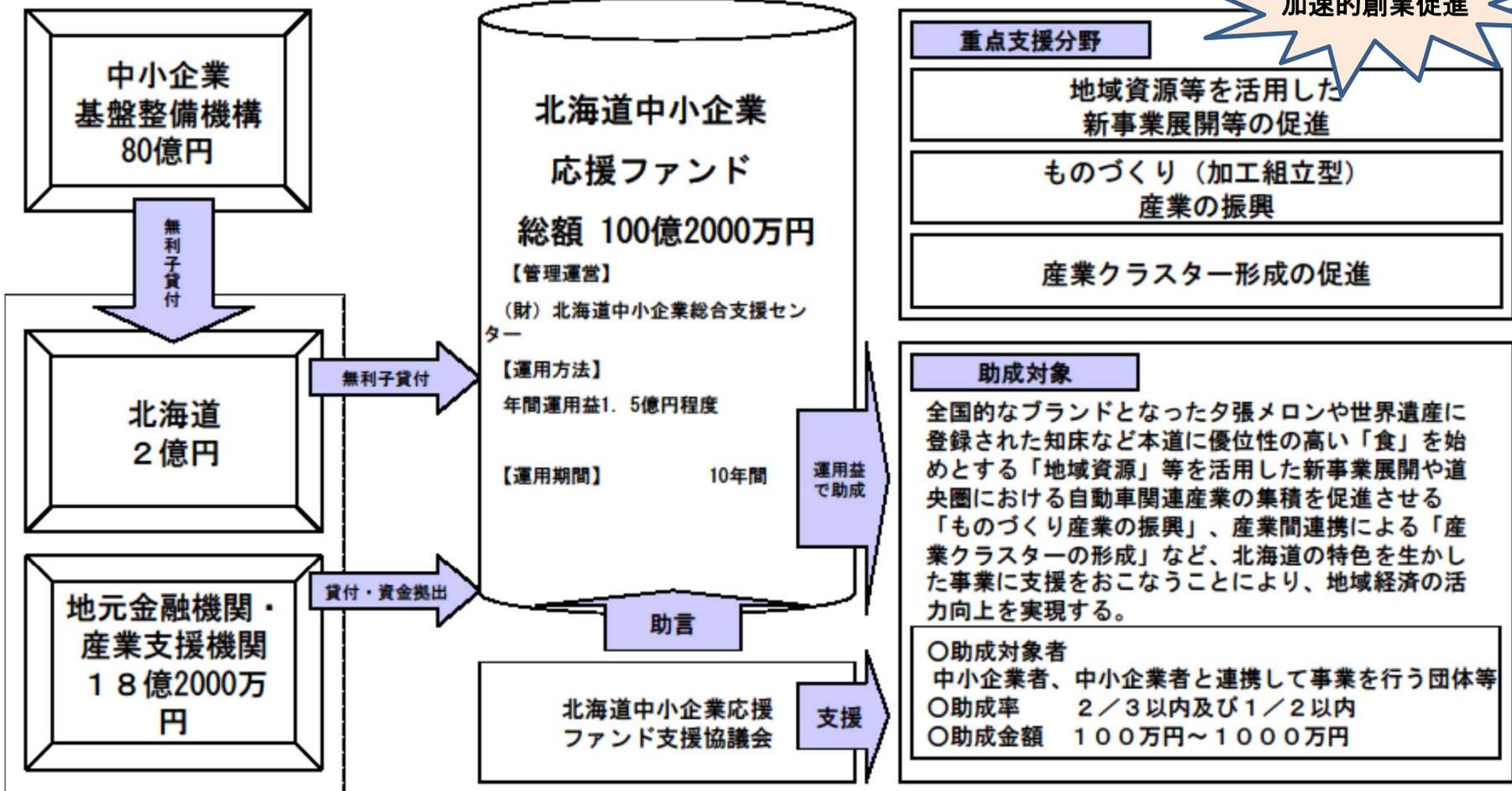


【金融機関との連携】

◇認定支援機関は、地元金融機関。当該機関から融資を受けた。また、後志管内産食材を仕入れるため、当該機関の取引先である米穀店、八百屋をご紹介いただいた。また、当該機関の融資先に対して店舗PRをしていただいた。

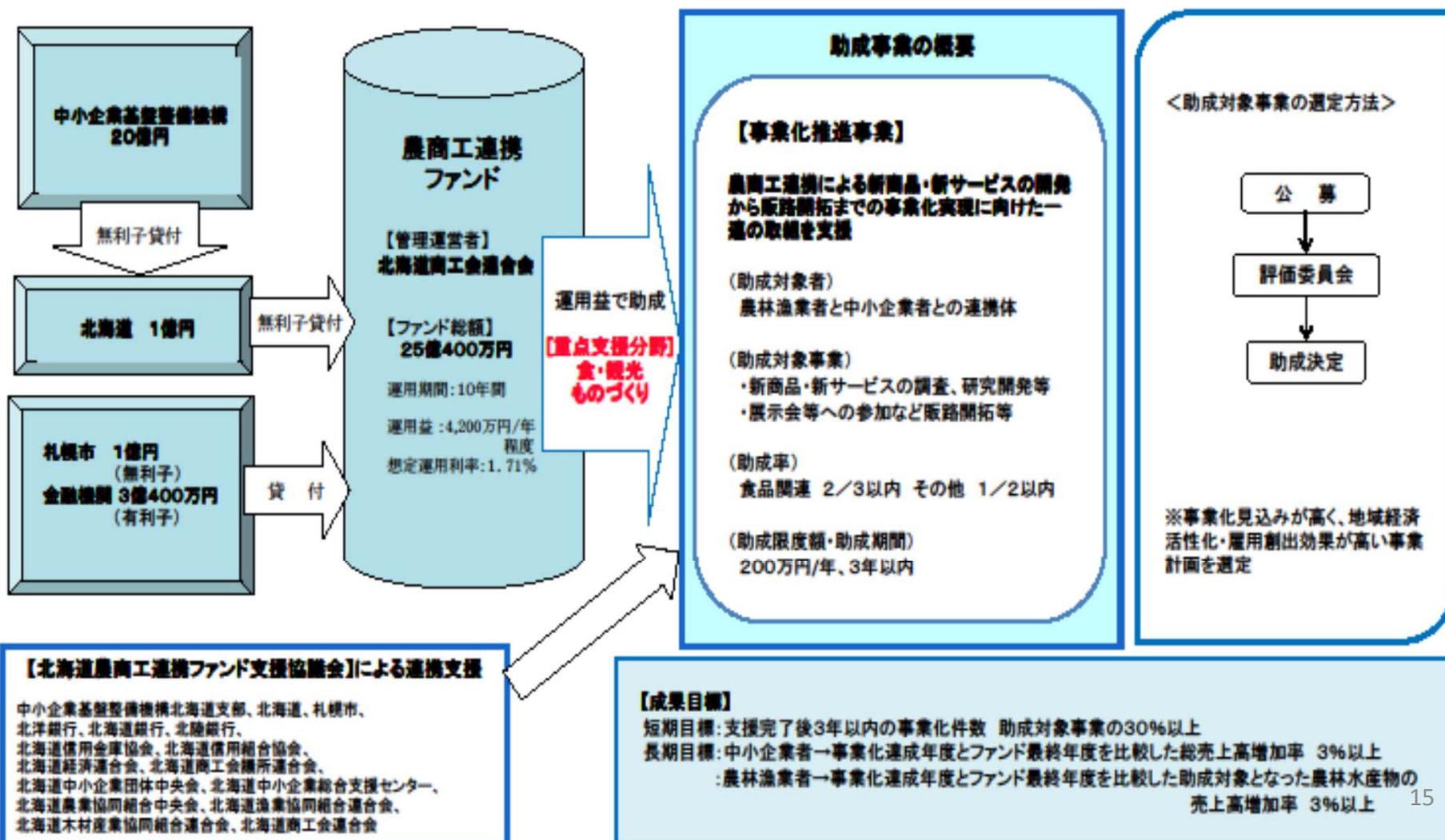
北海道中小企業応援ファンドの概要

地域の産業資源や事業シーズなどの多様な産業の芽を見出し、これらを活用した新たな産業の創出を図るとともに、経営革新の取組を促進し、道内における事業化への取組を加速することにより、地域経済の自立的・継続的发展を促進する。



「北海道農商工連携ファンド」スキーム図

(目的) 「ほっかいどう未来創造プラン」の実現に向け、北海道が優位性を有する農林水産資源を効果的に活用し、中小企業者と農林漁業者の連携体による同プランの「食」「観光」「ものづくり」の各戦略分野における新商品・新サービスの開発等の取組を加速することを目的に、本道独自の「農商工連携ファンド」を設置する。



大学連携インキュベーション施設

<大学、自治体、機構の連携による施設運営と総合的な支援>

(平成27年9月末)

中小機構北海道本部

施設整備・運営、入居者の事業化に向けた支援・地域企業の支援

大学の研究者等

知的資源の有効活用・実用化を図りたい。起業化を図りたい。(大学発ベンチャー、産学共同開発等)

地域の企業等

大学等と連携して、新事業展開を行いたい。(起業、第二創業等)

入居

北大ビジネス・スプリング

総合的なインキュベーション支援

- ・ビジネス化のための賃貸施設の提供
- ・IMの配置等による現場サービスの提供
- ・大学、自治体等との連携による起業化、事業化支援の総合施策の実施

卒業

バイオ、IT、ものづくりベンチャー企業等が12社入居



次世代を担う企業群の創出

入居者支援
運営サポート

IM3名

C2

北大R&BP推進協議会

○札幌市

○北海道

○北海道大学

○北海道
経済連合会

○北海道科学
技術総合振興
センター

北海道立
総合研究機構

△北海道
経済産業局

△さっぽろ産業振興財団

△北海道中小企業総合支援センター

○北大ビジネス・スプリング運営委員会構成機関(△;オブザーバー)

施設の概況

施設外観



居室



リフレッシュコーナー



共用会議室

支援活動の状況

C2

展示会



セミナー



交流会



ビジネスプラン発表会



金融機関等の皆様にご支援いただきたいこと

●中小企業からの資金調達に関する相談時において、財務状況や担保余力を重点的に評価することに加えて、事業計画における商品の新規性等による将来性についても高く評価していただきたい。

●創業者に出来るだけ負担にならないような（担保提供、個人保証等）リスクマネーの供給をご検討いただきたい。

●金融機関間の連携などによる協調融資をより一層進めていただきたい。

●地域経済活性化を促進する効果的な案件をご紹介いただきたい。

- 例)
- ・十勝のチーズのような地域ブランドの形成
 - ・観光振興のような地方創生事業の創出

●新連携、地域資源、農商工連携の新規案件発掘を、貴行の目標管理制度の加点項目に加えるなど、業務としてのインセンティブを付与していただきたい。

●各支店の融資先企業を会員とした協力会等の会合の場で、3法ハンズオン事業の事業説明を直接機構が出向いて実施する機会を与えていただきたい。

●地元の創業支援に特化した金利等優遇融資制度、地域ファンド、地域基金等資金調達手段を増強をご検討をお願いしたい。

小規模企業共済の制度改正について

1. 共済事由の引き上げ

(1) 以下の事由が「準共済事由」から「A共済事由」に引き上げ

- ① 個人事業主の「個人事業主が配偶者又は子への事業の全部譲渡」
- ② 共同経営者の「個人事業主が配偶者又は子への事業の全部譲渡に伴い、配偶者又は子への事業（共同経営者の地位）を全部譲渡」

(2) 以下の事由が「準共済事由」から「B共済事由」に引き上げ

- ① 会社等役員の「会社等役員の退任（疾病・負傷・死亡・解散を除く）」のうち、会社等役員の退任日において65歳以上の場合

2. 共済を受給できる遺族の範囲の拡大

(1) 共済金を受給できる遺族に『共済契約者と生計維持関係がなかった「ひ孫」と「甥・姪」』の追加

小規模企業共済の制度改革について

3. 分割共済金の支給回数が増大

- (1) 共済金の分割支給(分割共済金)が、年4回から年6回(毎年1月、3月、5月、7月、9月、11月)に増大

4. 申込金の廃止

- (1) 「共済契約の申込み」と「増額の申込み」のお手続きの際の申込金が不要(現金による納付が不要。)

5. 掛金月額の見直し(減額)の要件廃止

- (1) 掛金月額の見直しを行う際の要件(減額要件)が廃止。委託機関による減額理由の確認が不要。

小規模企業共済の制度改正について

6. 掛金納付月数の通算事由を追加

- (1) 共同経営者が、いったんその地位を退いた場合でも、一定の条件に該当する場合は、1年以内に新たに経営者となり本共済の加入要件を満たすときは、掛金納付月数の通算が可能

7. やむを得ない掛金滞納に対する機構解約の例外を追加

- (1) 災害など契約者の責任ではない理由（やむを得ない理由）により生じた掛金の滞納については、共済契約の継続が可能。

中小機構北海道・北海道よろず支援拠点 窓口一覧（機構オフィス等5カ所、よろず支部等7カ所）



【中小機構北海道 窓口(連絡先)】

北海道本部	
旭川(中小企業大学校)	TEL 011-210-7471
帯広(十勝財団)	
北見オフィス	TEL 0157-57-5677
釧路オフィス	TEL 0154-68-4866
函館オフィス	TEL 0138-24-6600

【北海道よろず支援拠点 窓口(連絡先)】

札幌本部	TEL 011-232-2407
道北支部	TEL 0166-68-2750
オホーツク支部	TEL 0157-31-1123
釧路支部	TEL 0154-64-5563
十勝支部	TEL 0155-67-4515
日胆支部	TEL 0143-47-6410
道南支部	TEL 0138-82-9089

道内の中小企業支援にご協力の程 よろしく願いいたします

(独)中小企業基盤整備機構 北海道本部
経営支援部 松尾 一久

TEL 011-210-7471 /

E-mail matsuo-k@smrj.go.jp